

2030年を超えて —SDGsフォーラム 2021

日外協は2月25日、「SDGsフォーラム 2021」をウェビナー形式で開催した。
企業はなぜ社会課題の解決に取り組まなければならないのか。

パネリスト

サントリーホールディングス株式会社

株式会社山陰合同銀行

株式会社イースクエア

司 会

一般財団法人 日本総合研究所

市田智之
井上光悦
田村賢一
黒田秀雄

本来の「ノーマル」とは



一般財団法人 日本総合研究所
特任研究員 **黒田秀雄**

東京海上火災保険㈱で30年間勤務後、退職。2004年4月東京富士大学短期大学部教授に就任。その後東京富士大学教授となる(担当科目:経営戦略論、専門ゼミ、初年次教育)。定年退職後、17年4月から現職(研究対象:SDGs、地方創生)。「BOPビジネス研究会」代表幹事。

コロナ禍の拡大から1年以上が経過。ワクチンがようやく出回り始め、収束に向かう兆しも見られるようになったが、問題はコロナ後になどどのような世界を私たちは目指したらよいのか。

「ニューノーマル」という言葉が定着した。だが、コロナ禍に見舞われる以前の世界を振り返った時、環境汚染、経済格差など、果たして世界は「ノーマル」だったのか。持続可能と言える状態だったろうか。

コロナ禍から再生し本来のノーマルを取り戻すには、SDGsを羅針盤にする必要があると考える。SDGsの達成に向け、国際社会や各国政府ばかりでなく、企業の参加が欠かせない。

次世代に、より良い世界を残すために、私たちに何ができるのか。何をしたらいいのか。このフォーラムを通じて、考えていきたい。

本日は3人のパネリストの皆さんに、取り組みを紹介していただく。

いつまでも「水と生きる」ために

次世代環境教育「水育」

サントリーホールディングス株式会社
コーポレートサステナビリティ推進本部
サステナビリティ推進部



いちだ ともゆき
市田智之

サントリー入社後、横浜支社、中四国支社で酒類営業・営業企画を担当。その後、組合専従を経て、酒類の営業推進本部で全国の業務用営業向けの企画業務を担当し、2019年4月から現部署に所属。国内水源涵養活動、愛鳥活動、水育を担当。

1. サントリーグループのサステナビリティ経営

サントリーグループは、水や農作物など自然の恵みに支えられた総合酒類食品企業として、「人と自然と響きあう」を使命に掲げ、人々の生活を潤い豊かにすることと自然環境を守り育むことが共存し、人と自然が互いに良い影響を与え合って永く持続していく社会を目指す。

「人と自然と響きあう」社会を実現するために、水、CO₂、原料、包材、健康、人権、そして生活文化の7つの重点テーマを掲げている。この中でも特に水は、グループにとって最も重要な原料であり貴重な共有資源。環境基本方針